

2019年度 活動計画案（2019年4月1日～2020年3月31日）

■2019年度の方針

2019年度は第6期中期計画（2019年度～2021年度）の初年度になります。

「メサ・グランデ」は障がい者の地域活動を支援する居場所として、多様な人の居場所「地域活動支援センター」を開設して3年が経過しました。手探り状態の中、試行錯誤を繰り返しながら、利用者たちに寄り添って支援できるスタッフが新たに加わり、支援が困難な利用者に対する対応も徐々に向上しています。今期は専門職のスタッフを誕生させ、よりきめ細かな利用者の支援体制を整えます。

カフェ事業では、スタッフが各々の特技を活かした仕事ができるようになってきていますが、新たなスタッフの加入を機に、今までの「分業」スタイルから、特定のスタッフ頼みにならない「協業」スタイルへの転換を図ります。また、2019年4月からの働き方改革の実施に伴い、対象スタッフ全員が年間少なくとも5日間の有給休暇を取得できる労働環境を目指します。

中間支援組織としては、これまでの成果を基に支援してきた団体のフォロー調査を行い、ぐらす・かわさき20周年に向けての成果としてまとめを行い、これからの発展にどうつなげるかを検討します。

「遊友ひろば」は、引き続きボランティアによる運営委員会体制を継続し、区画整理事業の進捗を見極めながら可能な限り現状の運営を維持します。

健全なNPO法人の運営として、単年度の「黒字化」をめざし、スタッフが安心して働ける職場を目指します。

■2019年度事業内容

（1）市民活動を支援するための事業の企画・実施（定款第5条（1））

事業規模／〇円

（担当理事：江田）

①さまざまなグループへの参加と応援

これまで同様、市民活動グループとのネットワークを広げ、市民活動がより活発になるよう参加し応援していきます。

- ・「多摩丘陵緑地保全ネットワーク（通称たまよこネット）」会員として参加（江田）
- ・「教育に憲法を生かす川崎市民の会」会員として参加（江田）
- ・「地域通貨たま運営委員会」事務局として参加（江田）
- ・「公益財団法人かわさき市民しきん」代表理事・理事として参加（広岡・江田）
- ・「NPO法人セカンドリーグ神奈川」理事として参加（田代）
- ・「たちばな農のあるまちづくり推進会議」委員として参加（前田・田代）
- ・「全国食支援協議会」地方研修会「食でつながるフェスタ」プログラム検討委員（前田・田代）
- ・「ひろがる、つながる、かわさき子ども食堂（仮）ミーティング」（前田）

他にも地域の市民や活動グループからの呼びかけがあった場合は、できるだけ関わっていきます。

②他団体に団体会員としての参加

〇次の団体に団体会員として登録し、主に広報協力、情報交換などを行います。

「川崎NPO法人連絡会」、「NPO法人フリースペースたまりば」、「NPO法人ワーカーズコレクティブ

協会」、「NPO 法人アクションポート横浜」、「NPO 法人まちづくり情報センター神奈川（アリスセンター）」、「NPO 法人たすけあい多摩」、「川崎商工会議所」、「登戸東通商店会」、「新城南口商店会」
「川崎地域エネルギー協議会」、「柘中寺子屋運営委員会」

○次の団体に賛助会員として登録し、協力します。

「公益財団法人かわさき市民しきん」

○また、次の団体に協力団体として参加します。

「福島の子どもたちとともに、川崎市民の会」

(2) コミュニティビジネス (CB) を支援するための事業の企画・実施 (定款第5条(2))

事業規模/200,000 円

コミュニティビジネス支援事業

(担当理事：広岡、スタッフ：前田・宮田)

メサ・グランデの土日祝を活用し、ワンデイシェフ・貸しスペース事業やイベントを実施し、コミュニティビジネスの創業・継続の支援を行います。新規利用者募集は行わず、利用実績のある方やその紹介の方、会員の利用に限定し実施します。

また、コミュニティビジネスに関して、随時相談などに応じ、地域の課題解決をすすめる取り組みを支援します。

(3) 障がい者を支援する事業の企画・実施 (定款第5条(4))

事業規模/21,150,000 円 (内補助金 12,550,000 円・売上 8,400,000 円・寄付 200,000 円)

地域活動支援センター メサ・グランデ事業

(担当理事：小林・伊丹、スタッフ：前田瑞穂・前田知花・新堀・和出・今田・伊藤聡美)

障がいのある人たちの居場所であり日中の活動拠点である、「地域活動支援センター」として、4年目の活動となります。地域活動支援センター メサ・グランデの特色や、活動内容などを必要としている方の情報を発信するために、地域活動支援センター専用のホームページを開設します。

利用者が自身のペースで過ごし、得意を活かした作業への取り組みを支援することにより、達成感や満足感につなげていきます。また、昼食づくりは継続的に毎日のプログラムに組み込み、食を通じて生活を整えることをはじめ、障がいによる生きづらさに多面的に寄り添い、支えていきます。

現在はレクとして取り組んでいる草木染めを物販につなげるなど、生産性を生み出す新たな活動にチャレンジしていきます。スタッフと利用者で協力して「メサ・グランデ」を盛り立て、売上増収を目指し、利用者には工賃という形で還元していきます。

2019年10月に予定されている消費税増税と軽減税率の導入に向け、運営体制を整えます。企業からの弁当受注やテイクアウト、物販に注力するなど、世間の動向を取り入れた創意工夫に務めます。

たちばな農のあるまちづくり協議会に引き続き参加し、縁農や八百屋により地産地消や都市型農業の継承に役立つことを目指します。

「めさみーる+」と称して、月に1回、地域の誰もが共に食事ができるイベントをボランティアと食材寄付により定期的に行い、地域と人をつなげ、多面的に食のネットワークを拓きます。

アクションポート横浜がコーディネートする大学生インターンシップや、企業・役所の職場体験受け入れ等を行い、将来の地域活動の担い手の育成に寄与していきます。

(4) 市民が交流する場所の運営及び関連事業の企画・実施 (定款第5条(5))

①地域活動支援センター メサ・グランデ事業/上記(3)の通り

②遊友ひろば事業

事業規模/3,520,000円

(担当理事：池上・町田、運営委員：池上・町田・瀬川・鈴木)

「遊友ひろば」を、場の運営に関心のある有志により運営していきます。幅広い世代の住民の交流を促進し、コミュニティを活性化するため、前年に引き続き以下のような事業を実施します。

○地域住民等への活動場所の提供

(担当ボランティア：池上・秋山、他)

○健康麻雀

(担当ボランティア：瀬川・町田 他)

○土井さんのオーガニック料理教室

(担当ボランティア：町田・宮下)

○放課後ひろば(食事付き寺子屋)

(担当ボランティア：池上・江田・小野・川口・佐藤・高崎・徳田・町田・多摩区食生活改善推進員連絡協議会(ヘルスメイト))

○親子ひろば(不定期開催)

(担当ボランティア：池上 他)

貸スペースは引き続き新規需要(各種会合など)を発掘し、売り上げ強化を図ります。会場内のチラシ管理も引き続き行います。健康麻雀は特に金曜日は、参加者・ボランティアの増員に向けて取り組みます。放課後ひろば(食事付き寺子屋)では、生徒の増員を目指すとともに、生徒同士の交流や食事を通してヘルスメイトさんはじめ地域の方との交流も図り、居場所としての役割を強化していきます。親子ひろばは、モンテッソーリカフェ等の特色ある人気講座を軸とし、共働き家庭でも参加しやすい休日の開催なども検討していきます。全体としては、引き続き無理のないボランティア運営体制の維持・業務分担を図ります。

(5) 以上の事業に関わる調査・研究及び情報の収集・提供 (定款第5条(6))

事業規模 50,000円

(担当理事：田代・薬袋、担当スタッフ：宮田)

①広報

ぐらすレターは前年より1回増やして、年間4回の発送とします。6月(総会報告、今年度事業の紹介など)、9月・12月(中間報告など)、3月(下半期の報告、総会のお知らせなど)の発行を予定しています。ぐらす・かわさきの事業報告のほか、会員からの投稿を掲載し、会員や関係者に情報を提供します。メーリングリスト配信への移行を更に進めると同時に、発送先リストを見直します。ホームページ、ブログ、フェイスブックページをさらに活用していきます。

②20周年に向けた資料の取りまとめ

2021年のぐらす・かわさき創立20周年に向けて、これまでぐらす・かわさきと関わりのあった人や団体の活動について調査を行います。その一環として、それらの調査報告をぐらすレターなどを通じて紹介していきます。

③講座開催・講師派遣

他の中間支援組織らと連携し、企画協力や講師派遣の依頼等があれば可能な限り協力します。

そのほかにも機会があればスタッフや理事を講師として派遣し、コミュニティビジネスや市民活動の促進を支援します。

④行政などに関わる委員会への参加

国分寺市協働事業審査会（田代）

かわさき市民公益活動助成金審査委員（池上）